

新機能について

本冊子は、添付の取扱説明書に記載されていない最新情報について説明します。



注意

MPに対応していないプロバイダに対してMPの設定や発信は絶対に行わないでください。異常課金となる場合があります。

追加された機能

RTA50iのプログラム Rev.3.04.39にて追加された機能は以下の通りです。

- 1) NTTの付加サービス「i・ナンバー」に対応
- 2) 複数のプロバイダに同時に接続する機能
- 3) メール転送機能
- 4) 「RVS-COM ISDN-DCP」対応
- 5) アナログダイヤルイン機能
- 6) アナログFAXの無鳴動着信に対応

NTTの有料の付加サービスであるi・ナンバーに対応し、TELポートやルータ着信用番号としてi・ナンバーのポート番号が自由に設定できるようになりました。これらのポート番号は「かんたん設定ページ」で設定することができます。i・ナンバーをご使用になるにはNTTとの契約が必要です。

「複数プロバイダ選択」機能を用いると、メール専用とそれ以外の接続先プロバイダをそれぞれ指定したり、LAN上のコンピューター台ごとに接続先プロバイダを割り当てたりすることが可能になります。この機能はRTA50iの「かんたん設定ページ」におけるルータとして使用する形態の「端末型接続設定」の拡張として扱われるため、TAとして使用する場合や、ネットワーク型接続では使用できません。また自動接続でも手動接続でもこの機能をご使用できます。

メール転送機能はメール着信確認機能を拡張強化した機能です。1通につき最大4096byteまでの未読のメールに対し、あるメールサーバから別のメールサーバへ転送することができます。転送のために条件を与えることもできます。

ドイツRVS社のRVS-COMをインストールしたパソコンからRTA50iを使ってLAN経由でFAXの送受信などを行うことができます。RVS-COM製品は国内ではメガソフト株式会社により販売されています。製品自体のインストール方法、ご使用方法、サポート等についてはメガソフト株式会社(URL <http://www.megasoft.co.jp/>)にお問い合わせください。

アナログダイヤルイン機能は、RTA50iのアナログポートに接続したアナログ通信機器に対して、アナログ回線のダイヤルインと同様にアナログ機器に対してダイヤルイン番号を通知する機能です。またこれにより最大5つまでダイヤルイン番号の設定が可能になりました。

i・ナンバー

i・ナンバーサービスは、アナログ通信とデータ通信の両方の着信に適用できます。これにより、電話などのアナログ着信とデータ着信を明確に振り分けることが可能となります。また、電話はアナログポートで受けて、FAXはRVS-COMで受けるといった振り分けも可能となります。

アナログ通信とデータ通信のi・ナンバーの設定は独立して同時に設定可能なので、ルータとTAとTEL 1ポートを同時にi・ナンバーのポート番号2に設定するような使い方も可能です。

i・ナンバーによる着信について

RTA50iに着信があると、まずアナログの着信であるかどうかチェックされ、i・ナンバーに合致したアナログポートだけを呼び出します。アナログで無い場合はデータ着信の扱いとなり、次の順番でi・ナンバーの設定に合致して着信に応答するかどうか判定されます。

- 1) ルータ
- 2) ISDN-DCP
- 3) TA

もしも、ルータとISDN-DCP、TAが同じi・ナンバーポートに設定されている場合、常にルータのほうに着信が優先されるため、ISDN-DCPやTAでは着信を受けられなくなるので注意が必要です。

MEMO ● ルータに着信するかどうかは最終的にはルータ着信に関する設定
● にもよるので、i・ナンバーが合致しただけでルータに必ず着信
● するという意味ではありません。

i・ナンバーの設定がされているときに、発信時に相手に通知される発信者番号には、各々以下の設定が使用されます。

- 1) アナログポート analog local address コマンドの設定
- 2) ルータ isdn local address コマンドの設定
- 3) ISDN-DCP RVS-COM の設定ウィザードで設定した自回線番号
- 4) TA AT\$Z= コマンドの設定

かんたん設定ページからの設定手順（電話着信設定）

1 パソコンからブラウザを開いて、かんたん設定ページへアクセスします。

2 [電話設定] を押します。

3 3つのTELポートそれぞれについて、[着信を許可するi・ナンバーのポート番号]欄の1, 2をチェックし、[登録]ボタンを押します。

着信番号として契約者回線番号を使う場合には”1”を、i・ナンバー用番号を使う場合は”2”を、両方を使う場合は1と2をチェックします。工場出荷設定では、TEL1ポートは1のみチェック、TEL2ポートは2のみチェック、TEL3ポートはチェックなしになっています。

RTA 50i

トップページ 端末型 ネット型 料金 システム

電話設定

ポート毎の設定

※回線番号は半角32桁以内、サブアドレスは半角16桁以内で入力してください。

回線(ダイヤルイン/i・ナンバー)番号 サブアドレス

TELポート	番号1	相手へ自分の番号を通知	番号2	ポート1	ポート2
TEL1ポート		<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
TEL2ポート		<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する		<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
TEL3ポート		<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

※相手へ自分の番号を通知「する」にした場合
相手番号の前に184を押すことで、その発信に限って自分の番号を通知しないようにできます。

※相手へ自分の番号を通知「しない」にした場合
相手番号の前に186を押すことで、その発信に限って自分の番号を通知することができます。

- MEMO
- ポート番号の1も2もチェックしなかった場合にはそのTELポートへの呼び出しは行われません。
 -
 -
 -
 - 番号欄に入力したISDN番号とサブアドレスは、発信時に相手に通知される発信者番号になります。
 -

電話機からの設定手順（電話着信設定）

1 受話器をあげます。

2 [*] と [#] を押します。

✖ #

3 機能番号 8 1 を押します。

8 1

4 TEL ポート番号を押します。

TEL ポート番号は、TEL1=1、TEL2=2、TEL3=3 です。

[*] を押すと今お使いの TEL ポートに設定されます。

② （TEL2 ポートの場合の例）

5 i・ナンバーのポート番号を押します。

着信番号として契約者回線番号を使う場合には " 1 " を、i・ナンバー用番号を使う場合は " 2 " を押します。両方を着信させたい場合には " 1 2 " を押します。

① （契約者回線番号の場合の例）

② （i・ナンバー用番号の場合の例）

① ② （両方着信させる場合の例）

6 [#] を押します。

"ピー"という音が聞こえ、設定が変更されます。設定内容が適切でなかったり、正常に変更されなかったときは、"ピー、ピー"と聞こえますので、設定内容を確認してから、もう一度手順 3 から操作してください。

#

7 受話器を置きます。

続けて設定するとき、受話器をあげたまま手順3～6の操作を繰り返します。

かんたん設定ページからの設定手順（ルータ着信設定）

1 パソコンからブラウザを開いて、かんたん設定ページへアクセスします。

2 [システム管理] を押します。

3 ルータ着信で使用する i・ナンバーのポート番号を選択し、[登録] ボタンを押します。

- MEMO
- ポート番号の1も2もチェックしなかった場合にはルータとして
 - 着信しません。
 -
 - 「ルータのISDN番号」欄に入力した番号とサブアドレスは、発信
 - 時に相手に通知される発信者番号になります。

かんたん設定ページからの設定手順（ISDN-DCP 着信設定）

- 1 パソコンからブラウザを開いて、かんたん設定ページへアクセスします。
- 2 [システム管理] を押し、[RVS-COM の設定] へのリンクを押します。
- 3 ISDN-DCPの着信で使用する i・ナンバーのポート番号を選択し、[登録] ボタンを押します。
ダイヤルイン番号とサブアドレスが入力されている場合には削除します。

YAMAHA

システム管理：LAN接続版RVS-COM（ISDN-DCP）の着信設定

着信許可番号

回線(ダイヤルイン)番号1 サブアドレス

回線(ダイヤルイン)番号2 サブアドレス

着信を許可するi・ナンバーのポート番号 ポート1 ポート2

RVS-COMへの切り替え時間

着信をアナログポートからRVS-COMに切り替えるまでの時間 秒

G4FAXの着信

G3で発信し直すように(相手側に要求する)

G4で着信を許可する (RVS-COM 2000のみ使用可能)

音量レベル

送話音量レベル(PAD) 受話音量レベル(PAD)

上記の項目を設定した後、登録ボタンで設定内容を登録してください。

TAの着信設定手順

TAでi・ナンバーサービスを利用する場合には、かんたん設定ページからは設定できませんので、以下のATコマンドで設定してください。

- ATS102=0 ... 呼び出ししない(工場出荷状態)
- ATS102=1 ... i・ナンバーのポート番号1
- ATS102=2 ... i・ナンバーのポート番号2
- ATS102=3 ... i・ナンバーのポート番号1と2の両方

ターミナルソフトとATコマンドについては、取扱説明書の「ターミナルソフトを使う」(P.138)と「ATコマンド」(P.156)を参照してください。

複数プロバイダ選択機能 設定手順

複数プロバイダ選択機能に関する設定を行う前に、契約したプロバイダをすべて本機に登録しておいてください。設定手順の詳細は、取扱説明書第2章「ルータのダイヤルアップ接続設定」を参照してください。

注意1) 同一のプロバイダに対して複数の登録は行わないでください。

注意2) フィルタ番号の50～79番は本機能のために予約されていますので使用しないでください。

メール専用のプロバイダとそれ以外を区別する場合

1 パソコンからブラウザを開いて、かんたん設定ページへアクセスします。

2 [端末型接続] を押します。
「端末型接続設定」ページが表示されます。

3 [自動接続設定] は [する] を選び、「複数プロバイダ選択」は [する] を選択します。
「メール専用のプロバイダ選択」を選択して、[複数プロバイダ選択の設定 / 修正] ボタンを押します。

端末型接続設定

プロバイダの登録

プロバイダ名	登録の修正	接続	最後の通信
1 プロバイダ1	登録の修正	接続	なし
2 プロバイダ2	登録の修正	接続	なし

プロバイダとの接続は同時には1ヶ所のみです。

プロバイダの追加

プロバイダの削除

1 プロバイダ1 ▼ プロバイダの削除

自動接続設定

自動接続を しない する 自動接続設定

自動接続をするに設定すると、コンピュータからインターネットへアクセス（ブラウザやメールなど）が発生した時に自動的に回線をコンピュータやルータの設定／運用によっては、意図しない接続や長時間の接続による異常課金となる場合がありますので十分注意して

複数プロバイダ選択

複数プロバイダ選択を しない：自動接続をする場合の接続先 1 プロバイダ1 ▼

する メール専用のプロバイダ選択 ▼

複数プロバイダ選択の設定 / 修正

- 4** [メール専用のプロバイダ]を選択し、送信用のサーバ名と受信用のサーバ名を入力します。
[メール以外のプロバイダ]にはその他すべてのアプリケーションを使用した場合の接続先プロバイダを設定します。

YAMAHA

モデム型接続設定：メール専用のプロバイダ選択

意図しない課金や接続を防ぐために、登録後には設定した通りの動作が行なわれることを確認してください。

メール専用のプロバイダ

接続先	1 プロバイダ 1
メール送信用 (smtp) サーバ名	smtp.providen.ne.jp
メール受信用 (pop) サーバ名	pop.providen.ne.jp

メール以外のプロバイダ

接続先	2 プロバイダ 2
-----	-----------

登録 キャンセル

- 5** [登録] ボタンを押して、設定を保存します。

コンピュータ (IP アドレス) 毎にプロバイダ変更する場合
まず、LAN上のすべてのコンピュータのIPアドレスを固定で設定し、その後、
本機の複数プロバイダ選択に関する設定を行います。

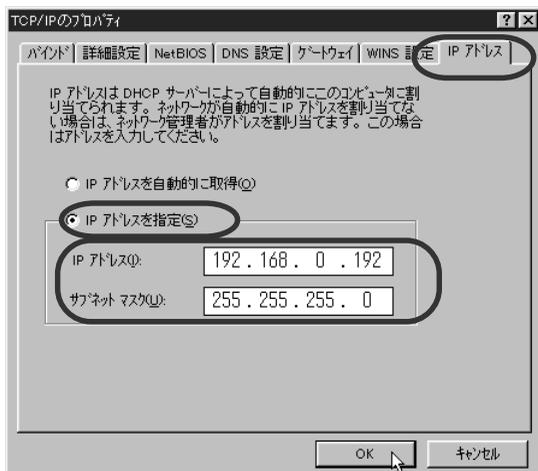
LAN 上の Windows コンピュータの IP アドレスの設定

- 1 [マイコンピュータ] の [コントロールパネル] の [ネットワーク] を開き、リストの中の "TCP/IP->(ネットワークカードの名称)" を選択して [プロパティ] ボタンを押します。

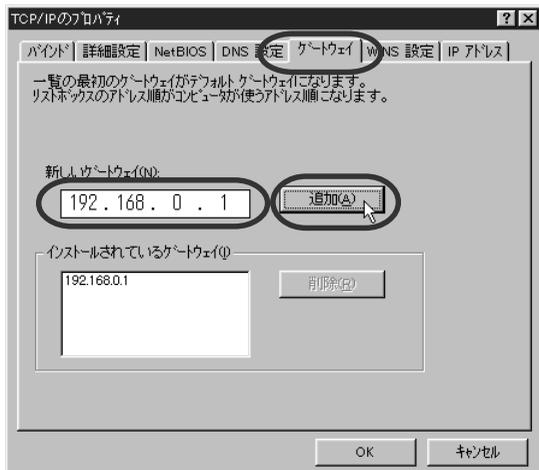


- 2 [IP アドレス] タブを押し、[IP アドレスを指定] を選択します。IP アドレスとサブネットマスク欄に Windows コンピュータの IP アドレスとネットマスクを入力します。

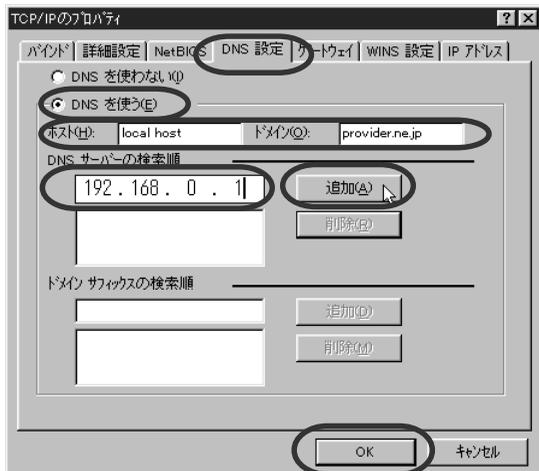
本機の IP アドレスが工場出荷状態の場合は、Windows コンピュータの IP アドレスは 192.168.0.192 から 192.168.0.254 の範囲で設定します。



- 3** [ゲートウェイ]タブを押して[新しいゲートウェイ]に本機のIPアドレス(工場出荷状態では192.168.0.1)を入力し、[追加]ボタンを押します。



- 4** [DNS設定]タブを押し、[DNSを使う]を選択します。[ホスト名]にWindowsコンピュータの名前を、[ドメイン]に接続するプロバイダのドメイン名を、[DNSサーバーの検索順]には本機のIPアドレス(工場出荷設定では192.168.0.1)を入力し、[追加]ボタンを押します。

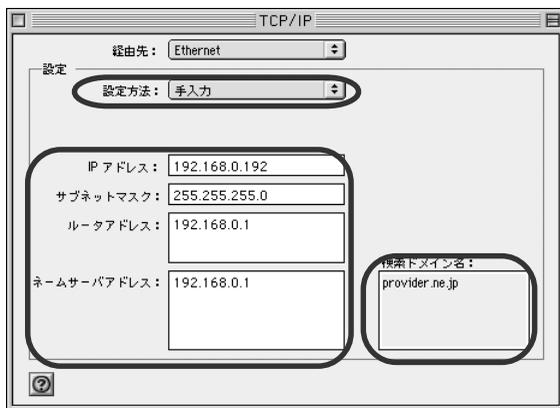


- 5** [OK]ボタンを押します。メッセージに従って再起動します。

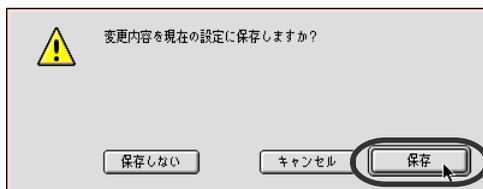
- 6** LAN上のすべてのWindowsコンピュータに対して上記1から5の手順を繰り返し、すべてのWindowsコンピュータが異なるIPアドレスとなるように設定します。

LAN上のMacintoshのIPアドレスの設定

- 1** アップルメニューの [コントロールパネル] の [TCP/IP] を開きます。
- 2** [設定方法] を [手入力] にし、[IPアドレス] にはMacintoshのIPアドレスを、[サブネットマスク] にはネットマスクを、[ルータアドレス] と [ネームサーバアドレス] には本機のIPアドレス（工場出荷設定では192.168.0.1）を、[検索ドメイン名] には接続するプロバイダのドメイン名を入力し、ウィンドウを閉じます。
本機のIPアドレスが工場出荷状態の場合は、IPアドレスは192.168.0.192から192.168.0.254の範囲で設定します。



- 3** 確認のダイアログが現れたら [保存] ボタンを押します。



- 4** LAN上のすべてのMacintoshに対して上記1から3の手順を繰り返し、すべてのMacintoshが異なるIPアドレスとなるように設定します。

本機の設定

- 1 パソコンからブラウザを開いて、かんたん設定ページへアクセスします。
- 2 [端末型接続] を押します。
「端末型接続設定」ページが表示されます。
- 3 [自動接続設定] は [する] を選び、「複数プロバイダ選択」は [する] を選択します。
「コンピュータ (IPアドレス) 毎にプロバイダ選択」を選択して、[複数プロバイダ選択の設定 / 修正] ボタンを押します。

The screenshot shows the 'RTA 50i' configuration interface. At the top, there are navigation icons for 'トップページ', 'ネット型', '電話', '料金', and 'システム'. The main section is titled '端末型接続設定' (Terminal-type Connection Settings).

プロバイダの登録 (ISP Registration):

プロバイダ名	登録の修正	接続	最後の通信
1 プロバイダ1	[登録の修正]	[接続]	なし
2 プロバイダ2	[登録の修正]	[接続]	なし

複数プロバイダ選択をする で設定されたプロバイダのみ接続が可能です。
[プロバイダの追加]

プロバイダの削除 (ISP Deletion):

1 プロバイダ1 [プロバイダの削除]

自動接続設定 (Automatic Connection Settings):

自動接続を しない する [自動接続設定]

自動接続をする に設定するとコンピュータからインターネットへアクセス (ブラウザやメールなど) が発生した時にコンピュータやルータの設定 / 運用によっては、意図しない接続や長時間の接続による異常課金となる場合があります。

複数プロバイダ選択 (Multiple ISP Selection):

複数プロバイダ選択を しない : 自動接続をする場合の接続先 [1 プロバイダ1]

する [コンピュータ (IPアドレス) 毎にプロバD]

[複数プロバイダ選択の設定 / 修正]

現在の接続状態の確認 (Check Current Connection Status):

回線は接続していません。
最新情報に更新します。ブラウザの再読み込み / 更新ボタンでも更新されます。
[更新]

キャンセルボタンでトップページに戻ります。
[キャンセル]

4 コンピュータのIPアドレスを入力し、インターネットアクセスする場合の接続先プロバイダを選択します。

[上記コンピュータ以外の接続先] には LAN 上のその他すべてのコンピュータの接続先プロバイダを設定します。

メール着信確認機能を使用する場合には、[ルータによるメール着信確認先] にメールサーバのあるプロバイダを選択します(メールサーバの登録は、[システム管理] ページの [メールサーバの登録] 画面で設定してください)。

YAMAHA

端末型接続設定：コンピュータ（IPアドレス）毎のプロバイダ選択

意回ししない設定や接続を防ぐために、登録後には設定した通りの動作が行なわれることを確認してください。

コンピュータのIPアドレス	接続先プロバイダ
1 192.168.0.192	1プロバイダ1
2 192.168.0.193	1プロバイダ1
3	なし
4	なし
5	なし
6	なし
7	なし
8	なし

上記コンピュータ以外の接続先 2プロバイダ2

ルータによるメール着信確認先 1プロバイダ1

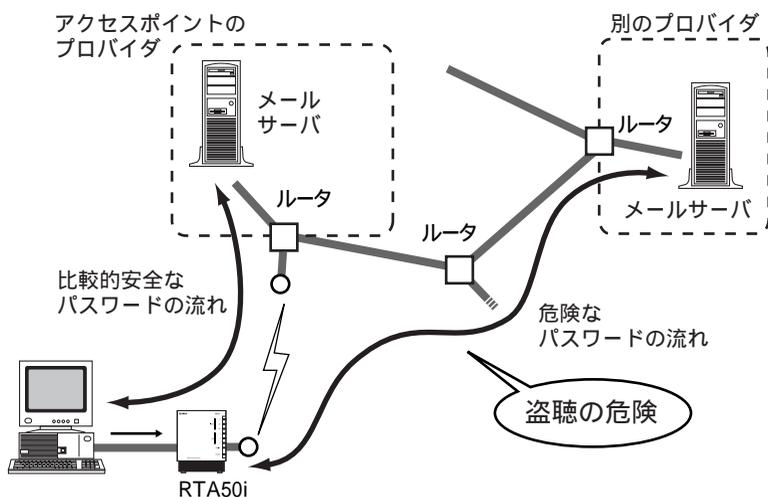
登録 キャンセル

5 [登録] ボタンを押して、設定を保存します。

メール転送機能

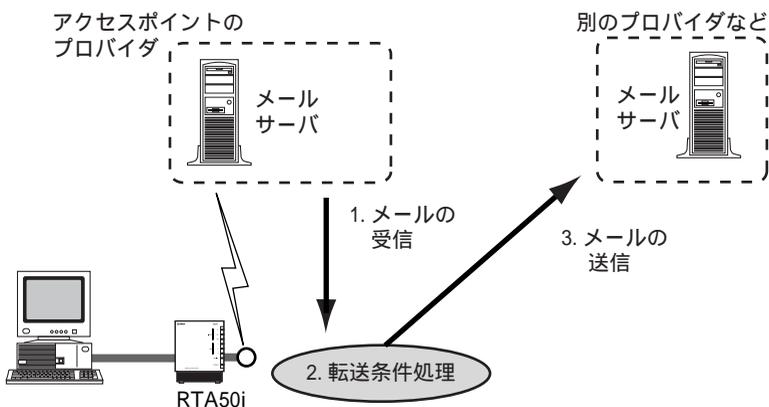
メール転送機能は、あるメールサーバの未読メールをRTA50iに一旦取り込み、別のメールサーバへ転送する機能です。転送時にはメールのFromやTo欄、データ長などに条件を与えて転送することも可能です。

注意 プロバイダと接続中の場合、そのプロバイダのメールサーバでないメールサーバに対してメール転送が実行されると、パスワード情報などが暗号化されずにインターネット上にまで流れるので十分注意してください。



メール転送の動作は次ページの図の中の番号で示した順番のようになります。

- 1) アクセスポイントの受信用メールサーバに接続し、未読メールの数を確認。
- 2) 転送条件に適合するかどうかを判断。
転送条件に適合しないメールは処理をスキップ。
- 3) 設定された送信用メールサーバへ、転送先メールアドレスにてメール送信。



- MEMO
- 扱えるメールのサイズは1通あたり10240byte（工場出荷状態）
 - まです、それを超えるサイズのメールは転送対象になりません。

ブラウザからの設定・操作手順

1 パソコンからブラウザを開いて、かんたん設定ページへアクセスします。

2 [システム管理] を押します。

3 [メールサーバの登録] ボタンを押します。

下の図はまだメールサーバが一つも登録されていない場合の例です。既に登録済みの場合には手順5へ進みます。



4 メールサーバの名称、受信用メールサーバのIPアドレスまたは名称、ユーザID、パスワードを入力します。

メールサーバのIPアドレス、ユーザID、パスワードは、プロバイダから通知されたものを入力してください。

自動でメールチェックする場合には「自動メールチェック」を指定し、「自動チェック開始時刻」と「メールチェックしない時間帯」を入力します。

メールサーバの登録

接続先プロバイダの設定は、端末型接続またはネットワーク型接続のページで行なってください。
意図しない課金や接続を防ぐために、登録後には設定した通りの動作が行なわれることを確認してください。

名前	メールサーバ	半角32文字分以内
受信用メール (POP) サーバ	pop.provider.ne.jp	IPアドレスまたは名前
ユーザID	UserName	半角入力32文字以内
パスワード	●	半角入力32文字以内
タイムアウト時間	30	～180秒
自動メールチェック	24時間毎	
自動メールチェック開始時刻	00 : 38 から実行	
メールチェックしない時間帯	00 : 00 ~ 00 : 00	

メール転送を しない する

- MEMO
- 接続先プロバイダは、[端末型接続] または [ネットワーク型接続] ページで設定したプロバイダになります。
 -
 - 自動メールチェックを「行わない」以外に設定すると、メール転送も同時に自動的に実行されます。

5 画面下に進み、メール転送を「する」をチェックし、転送元(送信側)メールアドレス、メール送信用(SMTP)サーバ、転送先メールアドレスを入力し、[登録]ボタンを押します。

必要に応じて「転送するデータの最大長」や「転送条件」などを入力してください。

メール転送を しない する

転送元(送信側)メールアドレス	src@provider.ne.jp	半角入力255文字以内
送信用メール(SMTP)サーバ	mx.provider.ne.jp	IPアドレスまたは名前
転送先メールアドレス	dest@provider.ne.jp	半角入力255文字以内
転送するデータの最大データ長	4096 バイト(越えた分は転送しない)	0~4096バイト (デフォルト 4096バイト)
転送条件	<input checked="" type="radio"/> 以下のすべての条件を満たした場合に転送する <input type="radio"/> 以下のどれかひとつの条件を満たした場合に転送する	
Toに	文字列 admin	が含まれるメールを転送 半角英字入力
使用しない	文字列	が含まれるメールを転送 半角英字入力
使用しない	文字列	が含まれるメールを転送 半角英字入力
使用しない	文字列	が含まれるメールを転送 半角英字入力

上記の項目を設定した後、登録ボタンで設定内容を登録してください。

6 確認の画面が現れたら [OK] ボタンを押します。

7 「システム管理」ページの「メールサーバの登録」画面にもどると、登録したメールサーバの名称が表れます。

メールチェックやメール転送を手動で実行する場合は、右側の欄の「手動チェック / 転送」下の [実行] ボタンを押します。

実行結果は画面が変わった後に表示されます。

RVS-COM

RVS-COM 2000はドイツのRVS社開発のWindows 95 / 98 / NT4.0用のソフトウェアです。これらの製品をパソコンにインストールすると、RTA50iのLANポートへ接続したパソコンからFAXの送受信を直接行なうことができます。詳しくはRVS-COM製品添付のユーザーズマニュアルを参照してください。国内では、RVS-COM製品はメガソフト株式会社が取り扱っています。製品自体のインストール方法、ご使用方法、サポート等についてはメガソフト株式会社にお問い合わせください。

URL <http://www.megasoft.co.jp/>

また、RVS-COM対応に関する最新情報についてはYAMAHA ISDNホームページのRTA50iに関する下記のページを参照してください。

URL <http://www.rtpo.yamaha.co.jp/RTA50i/index.html>

以下の説明では、RVS-COM製品のVer.1.63以降について、通信デバイスのタイプが「RVS ISDN-DCP 対応 ISDNルータ」に関する部分について説明します。旧製品やTA（通信デバイスのタイプが「ISDN ターミナル アダプタ」）に関する部分は取扱説明書の「RVS-COM」（P.132）を参照してください。

ISDN-DCP 対応に関する基本仕様について

最大10クライアントまで着信待ちが可能です。ただし、RVS電話とRVSコムセンターなど、アプリケーション毎に一つのクライアントとして扱われるため、必ずしも10台のパソコンで着信待ちできるというわけではありません。

ISDN-DCPクライアントで同時に通信できるのは2つまでです。

デバイスタイプISDN-DCPではG4 FAXが使用可能です。

ISDN-DCPでは非同期V.110によるデータ転送をサポートしておりません。

ISDN-DCPによる転送ではルーティングによる転送をサポートしておりません。

- MEMO
- 最大10個のISDN番号を登録可能なので、NTTのダイヤルイン
 - 契約を併用すれば着信待ちしているLAN上の特定のPCにダイレ
 - クトに着信を振り分けることが可能です。
 -
 - NTTのi・ナンバーサービス契約を併用することで、アナログ
 - ポートとRVS-COMを振り分けて運用することが可能です。

RVS-COMのインストールについて

以下の点に注意してインストールしてください。

「環境設定ウィザード」を起動しての設定手順中、通信デバイスの検出画面では「通信デバイスをマニュアル操作で選択する」チェックボックスにはマークを付けてください。(自動では検出されません)

「環境設定ウィザード」を起動しての設定手順中、「RVS ISDN-DCP 対応 ISDN ルータ」の「名前または IP アドレス」入力画面では、RTA50i の LAN インタフェースの IP アドレス(工場出荷状態は 192.168.0.1)を入力します。

「RVS コムセンター」の「デバイス」タブの「ダイヤルのプロパティ」画面の中で市外局番の先頭の 0 は削除することに注意します。

「RVS コムセンター」の「回線番号」タブで表示される「ISDN 回線番号」は、発信時に相手に通知される番号となります。

「RVS コムセンター」の「ISDN」タブの「この ISDN 回線では呼び出しの際着番号情報が通知される」のチェックボックスは、i・ナンバーサービスを契約した場合とグローバル着信ありのダイヤルイン契約ではマークを外し、グローバル着信のない通常のダイヤルイン契約を行った場合にはマークします。

最大数 10 のクライアントが着信待ちになっている場合、それ以上 RVS-COM ISDN-DCP 版のソフトウェアをパソコンにインストールをすることができません。インストールを継続するには、着信待ちになっているいくつかのクライアントを一時的に解除し、クライアント数の合計を 9 以下に減らしてください(現在のクライアント数は show status isdn-dcp コマンドにより確認できます)。

ダイヤルイン契約を行って複数のダイヤルイン番号を取得して番号毎に着信を振り分ける場合には、次にあげた項目の設定内容を確認してください。

- ・「電話設定」ページのアナログポートのダイヤルイン番号
- ・「システム管理」ページの「ルータの ISDN 番号」
- ・「システム管理」ページの「RVS-COM の設定」リンクページの「着信許可番号」
- ・「RVS コムセンター」の「ISDN」タブの「この ISDN 回線では呼び出しの際着番号情報が通知される」のチェックボックス(上記注意書き項目参照)



注意

RVS-COMの通信中には、かんたん設定ページにアクセスしないでください。またこの時は、コンソールコマンドのsave コマンドを実行しないでください。

RTA50i の電源を入れ直したり再起動を行った場合には、RVS-COM の方も再度起動しなおしてください。

着信条件について

ISDN-DCP として着信を受けるには、最低限、以下の2つの条件を同時に満たしている必要があります。

- 1) ISDN-DCP クライアントが少なくとも一つ着信待ちになっている。
- 2) RTA50i の設定で ISDN-DCP の着信が許可されている
(工場出荷状態では isdn-dcp arrive permit on、すなわち許可状態です)

データ通信とアナログ通信の着信について

RVS-COM は、電話や G3 FAX などのアナログ通信と、ファイル転送などを行うデータ通信の両方が可能です。データ通信は以下の優先順位で着信処理されます。

- 1) ルータ
- 2) RVS-COM ISDN-DCP
- 3) TA (RVS-COM の TA モードを含む)

もし、ルータのほうで着信を受けられる設定がされているときは、すべてそちらのほうに着信してしまい、ISDN-DCP や TA で着信を受けることができません(i ・ナンバーサービスは、これら3つの各転送モードに適用できますがこの優先順位は変わりません)。

アナログの着信があるとまずアナログポートを呼び出しますが、指定時間(工場出荷状態では 15 秒間)アナログポートの機器が応答しなければ自動的に ISDN-DCP のほうに着信が切り替わります。この切り替え時間を変更するには

コンソールコマンド isdn-dcp switch timer (P.32)により変更してください。
アナログポートには着信させずに、即座に ISDN-DCP に着信させるにはコン
ソールコマンドで isdn-dcp switch timer off のように設定します (P.32)。

- MEMO ● 即座に ISDN-DCP に着信させる設定ではなく、かつ、アナログ
● ポートに着信転送(擬似を含む)が設定されている場合にはISDN-
● DCP には着信できません。

RVS-COM 関連の設定

ここでは、かんたん設定ページから設定できる項目を説明します。コンソール
コマンドについては「RVS-COM に関するコンソールコマンド」(P.32)を
参照してください。RVS-COM 製品を使って通信を行うためにはパソコンの
RVS-COM 側の設定も必要です (インストールについては P.19 の注意書きを
参照してください)。

- 1 通信中の RVS-COM クライアントが無いことを確認します。
- 2 パソコンからブラウザを開いて、かんたん設定ページへアクセスします。
- 3 [システム管理] を押します。RVS-COM の着信設定 (許可するかしない
か) はここで選択します。RVS-COM 関連の詳しい設定を行う場合には、
[RVS-COM の設定] へのリンクを押します。



4 ISDN-DCPの着信で許可するダイヤルイン番号、i・ナンバーのポート番号、アナログからRVS-COMへ切り替える時間、音量レベルを設定し、[登録]ボタンを押します。

ダイヤルイン番号は着信許可のための番号ですが、発信時に相手に通知される発信番号はRVS-COM側で設定する必要があります。i・ナンバーの設定を行うと、着信時のダイヤルインの番号は着信動作では無視されます。アナログからRVS-COMへ切り替える時間を更に微調整したい場合には、コンソールコマンドにて可能です (P.32)。

G4 FAXの着信許可は、RVS-COM製品がG4 FAX通信対応している場合のみ設定が有効です。

音量レベルはRVS電話やG3 FAX、ソフトモデムなどの音声データを扱う通信がうまくいかない場合にだけ、徐々にレベルを下げて調整します。

- MEMO ● RTA50i が MP 通信により 2 本のチャネルとも使用中の間は、
● ISDN-DCP による通信はできませんのでご注意ください。

パソコンからの FAX 送信手順

- 1** パソコンの RVS-COM を起動します。
- 2** 送信したいファイルを開き、プリンタドライバに「RVS Fax」を指定して印刷と同じ操作を行います。
- 3** RVS-COM のダイアログに従って相手電話番号などを入力します。

パソコンからの FAX 受信手順

- 1** パソコンの RVS-COM を起動して、FAX 受信できる状態にしておきます。
- 2** アナログの着信があると接続してあるアナログ機器の呼出音が鳴ります。
- 3** 15 秒経過すると、自動的にアナログ機器の呼出音が切れ、RVS-COM が応答します。

- MEMO
- アナログ機器を呼び出す時間は工場出荷設定で15秒ですが、5秒から160秒の間に設定変更できます（ P.32 ）。
 - また、かんたん設定ページの「システム管理」ページの「RVS-COM の設定」リンクページでもおおまかに設定することができます（ P.22 ）。

アナログダイヤルイン機能

- MEMO ● 一つのアナログポートでモデムダイヤルインとPBダイヤルインを同時に利用することはできません(アナログポート毎にモデムダイヤルインとPBダイヤルインを分けて利用することは可能です)。
- 一つのアナログポートでナンバー・ディスプレイ機能とPBダイヤルインを同時に利用することはできません。ナンバー・ディスプレイ機能を利用する設定のアナログポートでは、アナログダイヤルイン機能はモデムダイヤルインのみのご利用になります(PBダイヤルインは利用できません)。ただし、アナログポート毎にナンバー・ディスプレイ機能とPBダイヤルインを別々に利用することは可能です。
- アナログダイヤルイン機能を利用する場合、アナログポートに接続されているアナログ機器がアナログダイヤルインに対応している必要があります。アナログ機器によっては、モデムダイヤルインには対応していてもPBダイヤルインには対応していない製品も存在します。また、この逆の場合もあります。ご使用されているアナログ機器の取扱説明書等でご確認してからご使用ください。
- アナログダイヤルイン機能を利用する場合、アナログポートに接続されているアナログ機器側でもアナログダイヤルインの設定を行う必要があります。

かんたん設定ページからの設定手順

- 1 パソコンからブラウザを開いて、かんたん設定ページへアクセスします。
- 2 [電話設定] を押し、画面下の [オプション設定] ボタンを押します。
「オプション設定」ページが表示されます。
- 3 TEL ポートを選択し、[選択] ボタンを押します。
- 4 ダイヤルインタイプ、HLC、ダイヤルインとして送信する番号を入力し、
[登録] ボタンを押します。

電話機からの設定手順

1 受話器をあげます。

2 [*] と [#] を押します。

✖ #

3 機能番号 8 2 を押します。

8 2

4 TEL ポート番号を押します。

TEL ポート番号は、TEL1=1、TEL2=2、TEL3=3 です。

[*] を押すと今お使いの TEL ポートに設定されます。

2 (TEL2 ポートの場合の例)

5 着番号タイプを押します。

着番号タイプを以下の 8 種類の中から指定します。

0 0 (グローバル着信の場合の例)

0 1 (1 番目のローカルアドレスの場合の例)

0 2 (2 番目のローカルアドレスの場合の例)

0 3 (3 番目のローカルアドレスの場合の例)

0 4 (4 番目のローカルアドレスの場合の例)

0 5 (5 番目のローカルアドレスの場合の例)

1 1 (i・ナンバーのポート番号が1 場合の例)

1 2 (i・ナンバーのポート番号が2 場合の例)

6 発信端末タイプを押します。
HLCが付かない場合=0、電話=1、FAX=2、すべて=*です。

② (FAXの場合の例)

7 着信サービスタイプを押します。
PBダイヤルイン=1、モデムダイヤルイン=2、無鳴動着信=3です。

② (モデムダイヤルインの場合の例)

8 ダイヤルイン番号を押します。
着信サービスタイプが「無鳴動着信」の場合にはこの操作は不要です。

9 [#]を押します。
"ピー"という音が聞こえ、設定が変更されます。設定内容が適切でなかったり、正常に変更されなかったときは、"ピー、ピー"と聞こえますので、設定内容を確認してから、もう一度手順3から操作してください。

Ⓜ

10 受話器を置きます。
続けて設定するときは、受話器をあげたまま手順3～9の操作を繰り返します。

擬似ナンバー・リクエスト

擬似ナンバー・リクエスト機能は、発番号通知がない着信に対して番号を通知してかけなおすよう音声案内（トーキ）を流す機能です。

かんたん設定ページからの設定手順

- 1 パソコンからブラウザを開いて、かんたん設定ページへアクセスします。
- 2 [電話設定] を押し、画面下の [オプション設定] ボタンを押します。
「オプション設定」ページが表示されます。
- 3 TEL ポートを選択し、[選択] ボタンを押します。
- 4 着信機能の「発番号がない着信」欄で「しない」をチェックし、条件指定を選択します。ページ下の [登録] ボタンを押します。
トーキありをチェックすると相手にRTA50i内部で用意した音声案内を流します(この場合、発信者側は通信料金がかかることとなりますのでご注意ください)。

The screenshot shows the 'YAMAHA' logo at the top left, followed by the title '電話設定：オプション設定' (Telephone Settings: Option Settings). Below this, there is a section for '現在の設定表示 TEL1ポート' (Current setting display TEL1 port) with a dropdown menu set to 'TEL1ポート' and a '選択' (Select) button. A note below states: 'オプション設定はポート毎に行ないます。ポートを選んで右の選択ボタンを押してください。' (Option settings are performed for each port. Please select a port and press the select button on the right). A red warning message follows: '※下記項目の設定を変更した後は、下の登録ボタンを押してください。' (After changing the settings of the items below, please press the registration button below). The '使用制限' (Usage Limit) section has a dropdown set to '発信、着信で使用' (Use for outgoing and incoming calls). The '着信機能' (Incoming Call Function) section contains several rows of settings:

着信機能	設定	状態
グローバル着信	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する	
着信ベルの登録	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	着信ベルの登録
識別着信 (登録番号からの着信)	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する	識別番号の登録
着サブアドレスがない着信	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する	
異なる種類の機器からの着信	<input type="radio"/> しない <input checked="" type="radio"/> する	
話中の着信通知	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	
発番号がない着信	<input checked="" type="radio"/> しない <input type="radio"/> する	<input checked="" type="checkbox"/> トーキあり 発番号がない全ての着信

- 5 必要に応じて、手順3で選択しなかったTELポートに対して手順3、4をくり返します。

電話機からの設定手順

1 受話器をあげます。

2 [*] と [#] を押します。



3 機能番号 8 3 を押します。



4 TEL ポート番号を押します。

TEL ポート番号は、TEL1=1、TEL2=2、TEL3=3 です。

[*] を押すと今お使いの TEL ポートに設定されます。

② (TEL2 ポートの場合の例)

5 動作指定の番号を押します。

発番号情報なし着信を拒否する =0、発番号情報なし着信を許可する =1、
擬似ナンバー・リクエストで拒否する =2 です。

② (擬似ナンバー・リクエストで拒否する場合の例)

6 条件指定の番号を押します。

公衆電話からの着信 =1、非通知の着信 =2、表示圏外の着信 =3、
すべて =* です。

① (公衆電話からの着信の場合の例)

7 [#] を押します。

"ピー"という音が聞こえ、設定が変更されます。設定内容が適切でなかったり、正常に変更されなかったときは、"ピー、ピー"と聞こえますので、設定内容を確認してから、もう一度手順3から操作してください。



8 受話器を置きます。

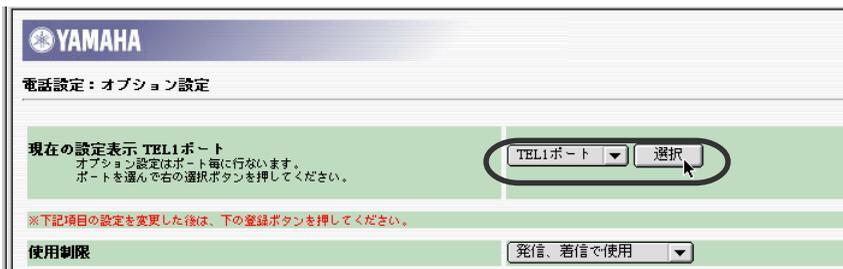
続けて設定するときは、受話器をあげたまま手順3～7の操作を繰り返します。

アナログFAX無鳴動着信

無鳴動着信機能は、ファクシミリ通信網の1300Hz信号(F網の無鳴動着信サービス)に対応している製品において、着信音を無音にする機能です。

かんたん設定ページからの設定手順

- 1 パソコンからブラウザを開いて、かんたん設定ページへアクセスします。
- 2 [電話設定] を押し、画面下の [オプション設定] ボタンを押します。
「オプション設定」ページが表示されます。
- 3 無鳴動着信に対応したFAX を接続したTELポートを選択し、[選択] ボタンを押します。



- 4 FAX無鳴動着信を使用「する」をチェックし、[登録] ボタンを押します。



追加されたコンソールコマンド

Rev.3.04.39 プログラムで追加されたコンソールコマンドを参考に列挙します。その他のコマンドの詳しい説明はCD-ROM収録のコマンドリファレンスを参照してください。これらのコマンドの実行については取扱説明書の「本機への設定について」(P.134)を参照してください。

最新のコマンドリファレンスは以下のヤマハホームページからPDFファイルの形式で入手することができます。

URL <http://Netvolante.rtpro.yamaha.co.jp/>

i・ナンバーに関するコマンド

isdn arrive inumber-port ルータで着信する i・ナンバーポート番号

設定例	isdn arrive inumber-port none	着信しない(工場出荷設定)
	isdn arrive inumber-port 1	ポート番号1で着信
	isdn arrive inumber-port 2	ポート番号2で着信
	isdn arrive inumber-port all	ポート番号1,2で着信

isdn-dcp arrive inumber-port ISDN-DCP で着信する i・ナンバーポート番号

設定例	isdn-dcp arrive inumber-port none	着信しない(工場出荷設定)
	isdn-dcp arrive inumber-port 1	ポート番号1で着信
	isdn-dcp arrive inumber-port 2	ポート番号2で着信
	isdn-dcp arrive inumber-port all	ポート番号1,2で着信

RVS-COM (ISDN-DCP) に関するコマンド

isdn-dcp local address ISDN-DCP クライアントの ISDN 番号登録

設定例	isdn-dcp local address 1 clear	(工場出荷設定)
	isdn-dcp local address 2 clear	(工場出荷設定)
	isdn-dcp local address 3 clear	(工場出荷設定)
	isdn-dcp local address 4 clear	(工場出荷設定)
	isdn-dcp local address 5 clear	(工場出荷設定)
	isdn-dcp local address 6 clear	(工場出荷設定)
	isdn-dcp local address 7 clear	(工場出荷設定)
	isdn-dcp local address 8 clear	(工場出荷設定)
	isdn-dcp local address 9 clear	(工場出荷設定)
	isdn-dcp local address 10 clear	(工場出荷設定)
	isdn-dcp local address 1 031234567/123	クライアント1に031234567/123
ノート	最大クライアント数 10 まで登録可能。 サブアドレスを指定する場合には / のあとに続けて入力する。	

isdn-dcp arrive permit ISDN-DCP への着信許可

設定例	isdn-dcp arrive permit on	着信許可 (工場出荷設定)
	isdn-dcp arrive permit off	着信拒否

isdn-dcp switch timer アナログポートに接続した機器を呼び出す時間

設定例	isdn-dcp switch timer 15	15 秒後に着信 (工場出荷設定)
	isdn-dcp switch timer off	即座に ISDN-DCP クライアントに着信させる
ノート	ネットワーク上に ISDN-DCP クライアントが一つも着信待ちになっていなければこの設定は無効。指定時間内にアナログポートの機器が応答しなければ ISDN-DCP クライアントに着信させる。 5 から 160 秒の間で設定する。	

show status isdn-dcp Listen 状態 / 通信中クライアント数の状態表示

実行例 show status isdn-dcp

show isdn-dcp config ISDN-DCP の設定の表示

実行例 show isdn-dcp config

show isdn-dcp account ISDN-DCP の料金情報表示

実行例 show isdn-dcp account

clear isdn-dcp account ISDN-DCP の料金情報をクリア

実行例 clear isdn-dcp account

isdn-dcp pad send ISDN-DCP で FAX/TEL 使用時の送話 PAD

設定例 isdn-dcp pad send off (工場出荷設定)

 isdn-dcp pad send -3db

 isdn-dcp pad send -6db

 isdn-dcp pad send -9db

isdn-dcp pad receive ISDN-DCP で FAX/TEL 使用時の受話 PAD

設定例 isdn-dcp pad receive off (工場出荷設定)

 isdn-dcp pad receive -3db

 isdn-dcp pad receive -6db

 isdn-dcp pad receive -9db

isdn-dcp arrive g4-fax permit G4 FAX からの着信時の動作

設定例 isdn-dcp arrive g4-fax permit off 許可しない(工場出荷設定)

 isdn-dcp arrive g4-fax permit on 許可する

ノート G4 FAX からの着信時の動作を設定する。

 on にした場合は G3 からの着信も受信する。

 off にした場合、発信側の G4 FAX が G3 で発信しなおす(フォールバック)
 機能がある場合は G3 で受信可能。

メール転送機能に関するコマンド

mail-check server 受信メールサーバの設定

実行例 mail-check server 1 clear サーバ1の設定を消去(工場出荷設定)
mail-check server 2 clear サーバ2の設定を消去(工場出荷設定)
mail-check server 3 clear サーバ3の設定を消去(工場出荷設定)
mail-check server 4 clear サーバ4の設定を消去(工場出荷設定)

設定書式 mail-check server N DESTINATION pop3 USERID PASSWORD [NAME]
mail-check server N clear

ノート 受信メールサーバのIPアドレス等の情報を設定する。

パラメータの詳細は以下のとおり。

- N ... サーバ番号(1..4)
- DESTINATION
メールサーバのIPアドレス
ホスト名
clear ... メールサーバの宛先なし
- USERID ... ユーザID (32文字以内)
- PASSWORD ... パスワード(32文字以内)
- NAME ... 識別名(32文字以内のASCII文字)

mail-transfer server 送信メールサーバの設定

実行例 mail-transfer server 1 clear サーバ1の設定を消去(工場出荷設定)
mail-transfer server 2 clear サーバ2の設定を消去(工場出荷設定)
mail-transfer server 3 clear サーバ3の設定を消去(工場出荷設定)
mail-transfer server 4 clear サーバ4の設定を消去(工場出荷設定)

設定書式 mail-transfer server N DESTINATION smtp FROM TO [NAME]
mail-transfer server N clear

ノート 送信メールサーバのIPアドレス等の情報を設定する。

パラメータの詳細は以下のとおり。

- N ... サーバ番号(1..4)
- DESTINATION
送信メールサーバのIPアドレス
ホスト名
clear ... メールサーバの宛先なし
- FROM ... 転送元ユーザのメールアドレス (255文字以内)
- TO ... 転送先ユーザのメールアドレス (255文字以内)
- NAME ... 識別名(32文字以内のASCII文字、省略可)

mail-transfer send to 送信先サーバの設定

実行例 mail-transfer send to clear サーバの設定を消去 (工場出荷設定)

設定書式 mail-transfer send to N ...

ノート メッセージを転送するサーバを設定する。

パラメータの詳細は以下のとおり。

- N
サーバ番号(1..4)
clear ... メールサーバなし

mail-transfer receive from 受信メッセージサーバの設定

実行例 mail-transfer receive from clear サーバの設定を消去 (工場出荷設定)

設定書式 mail-transfer receive from N ...

ノート 転送するメッセージを受信するサーバを設定する。

パラメータの詳細は以下のとおり。

- N
サーバ番号(1..4)
clear ... メールサーバなし

mail-transfer receive maxlength 受信する1通のメッセージの最大長

設定例 mail-transfer receive maxlength 10 最大 10240byte (工場出荷設定)

設定書式 mail-transfer receive maxlength LEN

ノート 1 から 100(× 1024byte)の間で設定する。

かんたん設定ページからの設定では 10240byte に制限される。

指定した最大長を超えるメールは受信しない。

mail-transfer timeout メール転送タイムアウトの設定

設定例 mail-transfer timeout 1 120 (工場出荷設定)

mail-transfer timeout 2 120 (工場出荷設定)

mail-transfer timeout 3 120 (工場出荷設定)

mail-transfer timeout 4 120 (工場出荷設定)

設定書式 mail-transfer timeout N TIME

ノート メール転送でのタイムアウトするまでの時間を設定する。

パラメータの詳細は以下のとおり。

- N ... サーバ番号(1..4)
- TIME ... 秒数(1..180)

mail-transfer send maxlength 転送メッセージの最大長の指定

設定例 mail-transfer send maxlength 1 infinity (工場出荷設定)
mail-transfer send maxlength 2 infinity (工場出荷設定)
mail-transfer send maxlength 3 infinity (工場出荷設定)
mail-transfer send maxlength 4 infinity (工場出荷設定)

設定書式 mail-transfer send maxlength N LEN

ノート パラメータの詳細は以下のとおり。

- ・ N ... サーバ番号(1..4)

- ・ LEN

メッセージが LEN の長さを超えたら超過部分を削除する(0..4096)
infinity ... mail-transfer receive maxlength で設定された長さまでを
転送する

mail-transfer go メール転送の実行

実行例 mail-transfer go

ノート メッセージの取り込みは指定されたサーバに対して未読分のみ行なう。
取り込んだメッセージは設定された転送先に応じて設定されたフィルタに
従って転送の可否が決定され、必要なメッセージのみが転送される。

mail-transfer receive restrict 受信メッセージサーバ制限

設定例 mail-transfer receive restrict 1 from 1 2 3 4 (工場出荷設定)
mail-transfer receive restrict 2 from 1 2 3 4 (工場出荷設定)
mail-transfer receive restrict 3 from 1 2 3 4 (工場出荷設定)
mail-transfer receive restrict 4 from 1 2 3 4 (工場出荷設定)

設定書式 mail-transfer receive restrict N from SERVER

ノート 指定したサーバに転送するメッセージを受信するサーバを制限する。
パラメータの詳細は以下のとおり。

- ・ N, SERVER ... サーバ番号(1..4)

mail-transfer filter 転送メッセージのフィルタ設定

設定例 mail-transfer filter 1 clear (工場出荷設定)
mail-transfer filter 2 clear (工場出荷設定)
mail-transfer filter 3 clear (工場出荷設定)
mail-transfer filter 4 clear (工場出荷設定)
mail-transfer filter 1 subject question and (to admin) サーバ1に対して、
Subject 欄に " question " が含まれ、かつ To 欄に " admin " が含まれる
メールを転送する場合
mail-transfer filter 2 length<=1000 サーバ2に対して、長さが1000byte
以内のメールを転送する場合

設定書式 mail-transfer filter N CONDITION

ノート 指定したサーバに転送するメッセージを受信するサーバを制限する。
パラメータの詳細は以下のとおり。

- N ... サーバ番号(1..4)
- CONDITION
 - from string ... From フィールドに string が含まれるメッセージ
 - to string ... To フィールドに string が含まれるメッセージ
 - subject string ... Subject フィールドに string が含まれるメッセージ
 - length<= N ... 長さが N オクテット以下のメッセージ
 - and ... 2つの条件の AND
 - or ... 2つの条件の OR
 - clear ... フィルタ制限なし

mail-transfer prohibit メッセージ転送禁止の設定

設定例 mail-transfer prohibit 1 off サーバ1の転送許可(工場出荷設定)
mail-transfer prohibit 2 off サーバ2の転送許可(工場出荷設定)
mail-transfer prohibit 3 off サーバ3の転送許可(工場出荷設定)
mail-transfer prohibit 4 off サーバ4の転送許可(工場出荷設定)

設定書式 mail-transfer prohibit N SW

ノート パラメータの詳細は以下のとおり。

- N ... サーバ番号(1..4)
- SW
 - on ... ルータからのメール着信確認の実行を禁止する
 - off ... ルータからのメール着信確認を実行可能とする

その他のコマンド

analog arrive without-calling-number 擬似ナンバー・リクエスト機能

設定例 analog arrive without-calling-number 1 permit all (工場出荷設定)

 analog arrive without-calling-number 2 permit all (工場出荷設定)

 analog arrive without-calling-number 3 permit all (工場出荷設定)

設定書式 analog arrive without-calling-number PORT TYPE [OPTION...]

ノート 指定したアナログポートの発番号情報なしの着信の処理を選択する。

 パラメータの詳細は以下のとおり。

 PORT... アナログポート番号(1 .. 3)

 TYPE:

 permit ... 発番号情報なし着信を許可する

 reject ... 発番号情報なし着信を拒否する

 calling-number-request ... 発番号情報なし着信を擬似ナンバー・リクエストで拒否する

 OPTION:

 all ... すべての着信を対象とする (オプション省略時)

 public-telephone ... 公衆電話の着信を対象とする

 rejected-by-user ... 非通知の着信を対象とする

 service-unavailable ... 表示圏外の着信を対象とする

isdn arrive g4-fax reject cause G4 FAX からの着信拒否の理由表示情報

設定例 isdn arrive g4-fax reject cause 88 理由表示 88 (工場出荷設定)

設定書式 isdn arrive g4-fax reject cause CAUSE [DIAGNOSTIC]

ノート G4 FAX からの着信の拒否に使用する理由表示情報を設定する。

 パラメータの詳細は以下のとおり。

 CAUSE ... 理由表示値 (3 または 88)

 DIAGNOSTIC ... 診断情報 (0 .. 255、省略可)

analog arrive incomming-signal 着信時サービス機能の設定

設定書式 analog arrive incomming-signal PORT NUMBER ADDRESS TYPE SIGNAL
DIAL-IN-NUMBER

ノート analog arrive incomming-signal delete PORT NUMBER
指定した PORT へ ADDRESS かつ TYPE の着信があった場合にその PORT
に SIGNAL した着信処理を行う。

アナログダイヤルインのときは DIAL-IN-NUMBER のダイヤルイン信号
を出す。

パラメータの詳細は以下のとおり。

PORT ... アナログポート番号(1.. 3)

NUMBER ... 登録番号(1 以上の番号)

ADDRESS:

global グローバル着信を登録

local1 1 番目のローカルアドレスを登録

local2 2 番目のローカルアドレスを登録

local3 3 番目のローカルアドレスを登録

local4 4 番目のローカルアドレスを登録

local5 5 番目のローカルアドレスを登録

inumber1 ... i ・ナンバーのポート番号 1 を登録

inumber2 ... i ・ナンバーのポート番号 2 を登録

TYPE:

tel ... HLC が電話

fax ... HLC が FAX

none ... HLC がつかない場合

all ... すべての HLC

SIGNAL:

modem ... モデムダイヤルイン

pb ... PB ダイヤルイン

no-ringing-fax ... 無鳴動着信

DIAL-IN-NUMBER : アナログ機器に送出するダイヤルイン番号

SIGNAL で modem/pb を指定したときのみ必要